

教育長からの手紙

さいたま市教育委員会教育長
桐淵 博

私は、4歳の頃父親と別れ、母に育てられました。父の記憶は断片的にしかありません。でも、少しも不幸ではありません。母との生活は楽しかったです。

「学校の先生になる」と決めたのは高校生のときです。子どもは、大人が信用できるかどうかすぐに見抜きます。新しいことをどんどん吸収します。子どもの真剣な顔はとても美しいと思います。私は子どもがすごく好きです。

私は、私と同じように子どもが大好きだった親友を、東日本大震災で亡くしました。子どもたちと一緒に避難しているとき津波に襲われたのです。お葬式で奥様は、「どんなにか悔しかったでしょう。でも、『君ならできる。がんばれ』というあなたの声が聞こえます。しっかり生きること、それが私の使命です。」といいました。友人代表は、「あなたと一緒に天国に昇った子どもたちのこと、よろしく頼みますよ。」とあいさつしました。私は泣きながら聞きました。

私たちは、生きてくても生きられなかったたくさんの人々の思いを引き継いで生きています。私たちは、自分に与えられた命を最期まで生きらなければなりません。絶対に自分で自分の命を絶ってはいけません。

勉強が苦手でも、運動が不得意でも問題ありません。世の中には数え切れないほどの種類の仕事があります。あなたはどんな道を進みますか？自分が正しいと思うことをやり、一生懸命生きていくことができればそれで十分です。私はそう生きてきました。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会

いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にさせていただくようお願いいたします。